

不登校の子が「好き」を通じて社会とつながっていく姿を地域で応援していく



やりたいからやる
“好き”をとことん
追求できる環境をつ
くりたいです！

あむラボ代表
小森史靖

#ハロプロ #音楽
#サッカー #DJ



安心する、話やすい
と思ってもらえる拠
所になれば嬉しい
です！

広報・デザイナー
鈴木愛

#AIアート #原神
#ネイル #ウクレレ



友だちになりたい、と
思ってもらえるよう
な存在になりたいで
す！

あむラボメンター
深谷陸葉

#料理 #漫画アニメ
#ゲーム #筋トレ



不登校のお子さん向けの新しいタイプのフリースクール。
メンターと1対1でお子さんの好きなことを一緒に楽しむ
伴走サービス & 好きでつながる友だちコミュニティ運営。



HP

2022 年
4 月 ~

活動開始

130 人

携わってきた
お子さんの人数

100 件

お子さんの
「やってみた」の数



なぜ活動しているのか？

ビジョン

「好きで自信を育み、好きで社会とつながる」

つくりたいシーン



好きな零戦を追い求めて、ラジコン飛行機を作り、受験を経て航空学校へ進学



好きなイナズマイレブンの同人イベントへ出展するため、全国の仲間と共同制作している

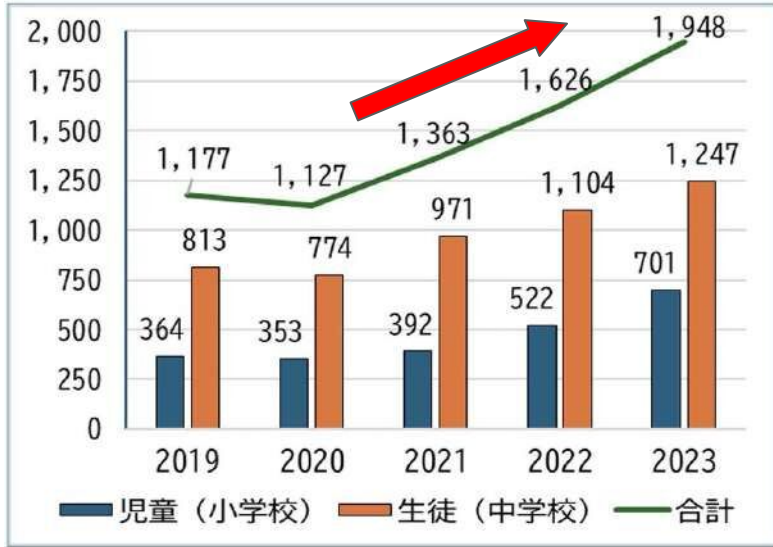


ゲーム部を立ち上げて、マイクラ友だちと毎日遊び、一緒に新しいことに挑戦中



好きな歌と絵を生かしたPR動画を作って応募し、憧れのVaundyと同じステージに立った

静岡市における不登校の現状



参照：不登校児童生徒の現状に関する資料（第10回静岡市総合教育会議）

学校内外の機関等で専門的な相談指導等を受けていない不登校児童生徒

約40%
(全国)

参照：令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要

- ・校外教育支援センター
- ・児相・福祉事務所
- ・病院、診療所、保健所
- ・フリースクール等民間施設
- ・養護教諭
- ・スクールカウンセラー等

静岡市の不登校児童数 **約2,000人**

約800人(推計)が支援につながっていない

【2024年度のフリースクール等民間施設の利用者数および施設での活動が在籍校で出席扱いとなった人数と割合】

	小学生	中学生	合計
フリースクール等民間施設 利用人数(人)	75	82	157
うち、 施設での活動が在籍校で 出席扱いとなった人数(人)	12	19	31
出席扱いとなった割合	16%	23%	19.7%

(各学校調べ)

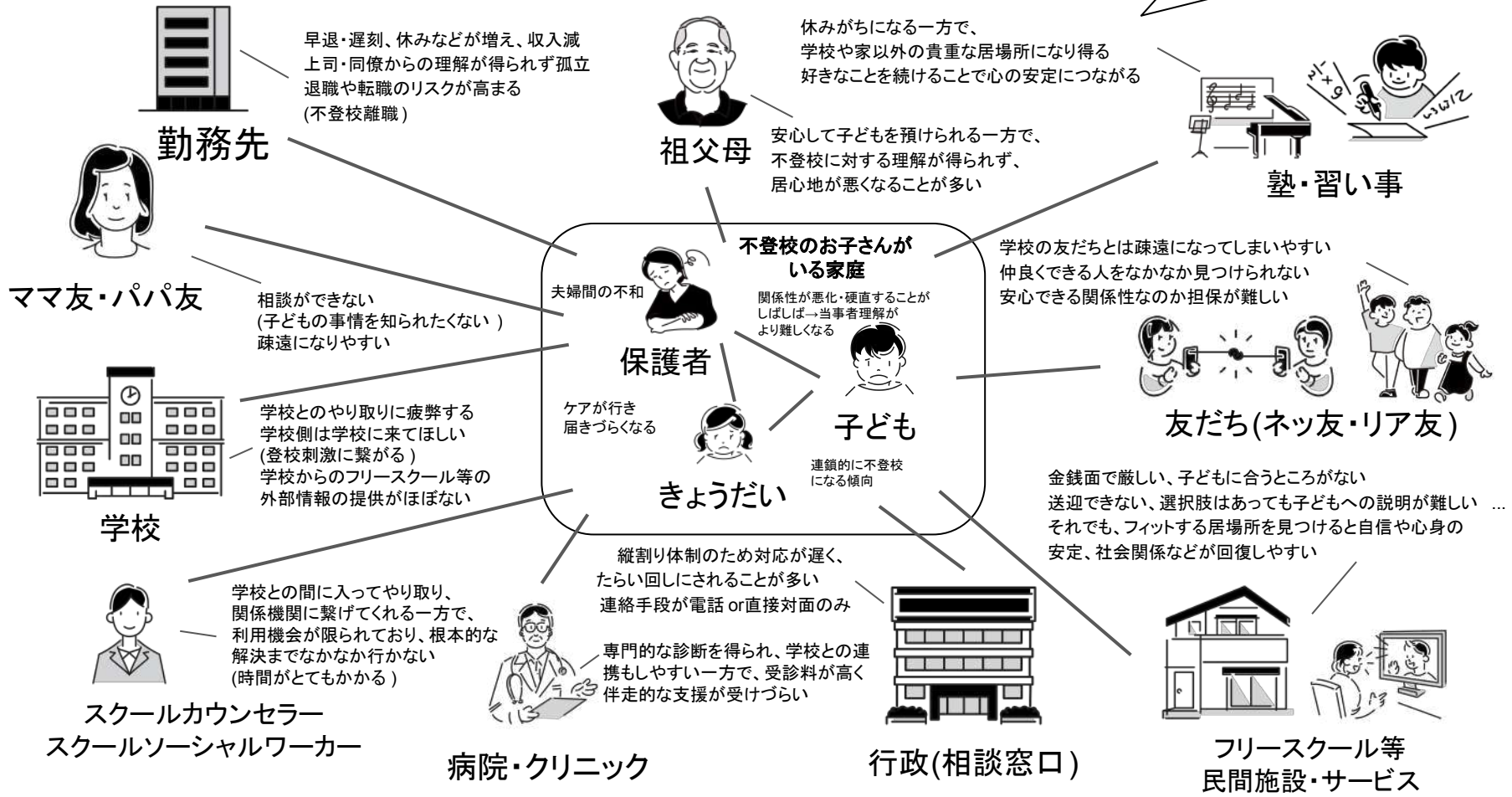
フリースクール等民間施設の利用者数
(静岡市の不登校児童数の)

約1割未満

参照：不登校児童生徒の現状に関する資料（第10回静岡市総合教育会議）

不登校の子どもを取り巻く構造(見解)

「子どものケア役割と負担が家庭にしわ寄せ」



これまで出会ってきた
子どもの抱えるしんどさ



- 身体調子が悪い
- 人と関わるのがこわい
- 好き・やりたいことが
ない(わからない)
- 罪悪感におそわれる
- 自信が持てない
- 将来が不安



不登校支援＝再登校支援ではなく、 当事者理解に基づいた「余暇活動支援」を広げていきたい。

不登校の子どもたちが、自分なりの幸せな自立へと向かっていくために、何かを身につけるでも、成果を出すでも、評価されるでもない フラットな関係性と場(自分の部屋、家、外、オンラインどこでも)の中で、自分の「好きなこと」を通じて、少しずつ自信を取り戻し、社会とつながっていく姿を、家庭含め地域で応援すること。

そのために、これまでのあむラボでの活動から以下の3つの存在が大切そう。

- ①信頼できる大人(メンター) ②友だち(コミュニティ) ③活動(趣味や好きなことなど)



アイデア：〇〇好きの子どものための習い事スクール(例「鉄道」)

■メニュー：お子さんの状態によって選べる

- ①好きなことプログラム(1on1個別伴走)
- ②体験型授業(対面、少人数制)
- ③オンラインコミュニティ

■モデル事例

小田急電鉄

「AOiスクール」

“不登校”の原体験をもつ
社員が企画・運営



鉄道関連の地域企業



- ・授業コンテンツ開発・講師協力
- ・運営費用補助
- ・教室場所提供(オフィス内など)

あむらぼ



- ・生徒集客
- ・大学生募集&マネジメント
- ・対面・オンライン教室運営
- ・授業コンテンツ開発

鉄道好き大学生



- ・伴走メンター(個別)
- ・授業ファシリテーター(少人数)
- ・オンラインコミュニティ管理人
- ・授業コンテンツ開発補助 など

自社業界に興味のある学生との接点を持ちたい
若手社員の育成に力を入れたい
形だけではない地域課題解決に取り組みたい

好きなことを生かして課外活動したい・働きたい
教育や社会課題への関心から現場を知りたい
自分の興味を深めたい、関心のある業界について知りたい

社会実験・トライアルしてどのようなことがわかってきたか？

①協和電工株式会社の市民開放型の共創スペース「RAIL HUB SHIZUOKA」にて



バス好きの小学生にヒアリング
中高生コミュニティとのつながりも



バス好きの大学生とプレ企画を初開催
少しずつ10代メンバーも増えていく予定

同スペースにて乗り物好きの子ども向け
のスクールを半年前からじっくり構想中

■わかってきたこと

- ・不登校状態でも、好きなことを介すると他者とのコミュニケーションや外出のハードルがグッと低くなる
- ・趣味の会話や活動に年齢や肩書きは関係ない
→ただ、マウントやいじめが起こらないよう注意が必要
- ・対象を不登校の子に絞らないほうがいい
→不登校文脈だと、本人の忌避感が強く親も勧めづらい
- ・まず1対1の関係性を築いた上で、単発型の企画に誘って参加してもらおうとコミュニティへの接続がスムーズ

■まだわからないこと

- ・テーマ特化型の月謝制スクールとして、どんなメニュー(価値)があると親目線で通わせようと思うのか
- ・対象を不登校の子に絞らないとは言え、不登校の子にも届けるために、どのような広報・紹介の仕方が有効か
- ・授業コンテンツづくりの進め方が不明瞭
- ・オンラインコミュニティの運営の仕方(優先順位は低い)
- ・乗り物に興味のある学生へのリーチの仕方

これから取り組んでいきたいこと

○1対1での好きなこと伴走プログラムを拡充していく【あむラボメンター】

・不登校サポーター養成プログラム

→あむラボの1対1伴走のスタンスや仕組みの体系化し、アウトリーチ体制を整備
(不登校の子どもに適切に関われる人・関わり方の選択肢を増やす)

○テーマ特化型のフリースクール(習い事教室)のモデルをつくる

・のりものが好きな(主に不登校の)お子さんのためのスクールを開校する

→まずは10代のコミュニティ(部活のようなもの)形成を「RAIL HUB
SHIZUOKA」を拠点に進めながら、保護者のニーズを調査していく

○不登校のお子さんがある保護者支援のインフラをつくる

・「登校に悩んだら開くリーフレット(仮)」を民間事業者と行政で共同制作

→静岡市内における保護者のニーズを汲むためのアンケート調査を実施予定